

国際交流員オギ一通信

Сайн байна уу
サインバイノー!
(モンゴル語で「こんにちは」)

モンゴル友好交流事業 (泉佐野市未来を創る教育事業)

泉佐野市とモンゴル国トゥブ県は2013年7月の友好都市提携以来、様々な分野で交流が深まっていますが、その中で定期的に行われている交流のひとつは泉佐野市未来を創る教育事業のなかの「モンゴル友好交流事業」です。

今年で4回目の本事業は8月4日～7日の間に行われました。市内の5つの中学



◀かるたの様子

校の10人の生徒や関係者6人で行って来ました。

2日目は首都ウランバートルのスポーツ学校の生徒と交流しました。交流内容はモンゴル側から伝統的なゲームのシャガイの紹介があったり、一緒にアクセサリを作ったりしました。市側からは折り紙、書道、かるたなどを紹介しました。短時間で言葉が通じなくても、子どもたちはすっかり仲良くなれました。

3日目は本事業の主目的となる、トゥブ県のフムーン総合学校の日本語教室の子どもたちや以前に泉佐野市を訪問したことがある高校生たちとの交流でした。トゥブ県側から日本の歌や民族舞踊などの披露があり、市側は折り紙、書道、かるたなどを教えました。今回は日本語を学んでいる子どもが多くて、かるたは大変盛り上がりました。その後、ホームビジットがあり、子どもたちが訪問先の家族と一緒に家庭料理を作ったり食べたり、家族の紹介を



▶書道の様子

したり、遊んだりして、良い思い出に残る大変有意義な時間を過ごすことができました。出発前に、トゥブ県の日本語教室に辞書や絵本などが不足していることを知り、お手伝いできたらと思い、泉佐野地球交流協会(ica)に協力をお願いをしてみたところ、辞書、絵本など合わせて20冊以上を集めてくれました。いただいた本は、トゥブ県の子どもたちの手元に届き、喜んで読み始めたことと連絡がありました。みなさんのお蔭で、次世代を背負う子どもたちがもっと日本語が好きになり、ニッポンに行きたいという夢を持ち、将来、泉佐野市とトゥブ県の友好交流関係を持続してくれるだろうと期待しています。ありがとうございました。

▶国際交流員のオギ一



今月のモンゴル語

дахин уулзацгаая (ダヒン ウールザツガーヤ): また会いましょう

地域の医療連携の中核を担う

りんくう総合医療センター

問合先 地域医療連携室 (☎469-3111 Fax469-7929)

科長 形成外科
服部 亮



中央手術室看護師長 藤原妙子
手術室



形成外科というと巷では美容的側面の印象が強いかと思えますが、体の形の問題を主として扱っており、頭やまぶたから足の爪に至るまで全身の腫瘍やきず、変形などを治療対象としています。

具体的には、生まれつきの変形、ひきつれを残して治った傷跡、ケロイド、治りにくい傷(潰瘍、ほくろや体表のできもの、皮膚癌、頭髪の欠損、逆まつげ、まぶたの下垂(眼瞼下垂)、顔面の骨折や変形、顔面神経麻痺、耳の変形、乳房や指などの再建、ワキガ、でべそ、下肢静脈瘤、巻き爪など様々な疾患を扱っており、日本形成外科学会から専門医養成が可能な施設として認定されています。また、炭酸ガスレーザー、アレキサンドライトレーザー、KBrAKレーザーを用いて、血管腫などの赤あざや異所性蒙古斑、外傷性刺青などの黒あざに対するレーザー治療も行っています。当院は公的病院であり、保険診療を主体としていますが、特に顔面など形が重要な部位の治療では美容的な相談にも可能な範囲で対応しております。

数年前までは保険診療の中では美容的な側面はほとんど考慮されていませんでしたが、2013年から乳癌術後の乳房欠損に対して乳房インプラントの使用が保険適応となり、標準医療の一部として整容的側面が認められるようになってきています。当院でも外科の医師と協力し、乳房インプラントやDDF皮弁などの自家組織を用いた多くの乳房再建手術を行っています。

近年各分野で進んでいるガイドラインに沿った標準的な治療も重要ですが、それぞれの患者さんのニーズに合わせた、少しでも綺麗な、少しでも目立たない、少しでも芸術的な、こだわりの持った治療を提供できるよう日々の診療に取り組んでいく所存です。右にあげた疾患でお悩みの方はお気軽に病院や近所の診療所にご相談ください。

人の一生の中で手術を受けるということはとても大きなイベントです。中でも心臓病、脳血管疾患、がんなどの三大疾病などは、病気を受け入れることへの葛藤や、手術への不安も非常に大きいものです。多くの方は手術までに体力を温存しようとしてあまり動けなかったり、精神的ダメージがちなったりすることがあります。手術は治療ですが、それ自体が体力を低下させるものがあります。入院までに体力を増進し栄養状態を整えることで、手術によるダメージを最小限にすることが期待できます。また術後肺炎などの呼吸器合併症発生は回復を遅延させますが、歯科医師によるプラークコントロールで術後呼吸器合併症発生率も低下できます。

りんくう総合医療センターでは、手術を受けられる患者さんをサポートする周術期管理を実施しています。周術期管理というのは、外来で手術が決まった時から手術に向けて心身の状態を整えていくためのものです。患者さんを中心に、医師・歯科医師・外来看護師・手術室看護師・管理栄養士・薬剤師・理学療法士など、手術までの準備や日常生活についての説明、術前指導などを実施すると同時に、精神的サポートをさせていただきます。周術期管理チームが関わり、患者さんに安心して手術を受け取っていただく一日も早く日常生活を取り戻すことができます。